

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北海道北見市端野町端野25番地		
自己評価作成日	平成22年5月31日	評価結果市町村受理日	平成22年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放感のある広々とした建物と、緑豊かな場所にあり、家庭的で和やかな雰囲気のもと、入居者様が、穏やかに生活して頂けるように、心の通い合ったケアをおこなっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://hokkaido.in/kaigosin/informationPublic.do?JCD=0195000229&SCD=NLCP-//SYSTEM.KAIGOJONO=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年6月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かでのどかな地区に立地する当事業所は、平成21年6月前経営者から同法人が引き継ぎ新たにグループホーム、小規模多機能ホームとして開設されています。代表者、管理者は利用者の尊厳を尊重した介護を目指し、法人共通の理念を事業所理念と定め、周知と実践を職員に働きかけています。利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせる様にと地域との連携にも積極的に取り組み、利用者と共に町内行事に参加し顔見知りの関係構築等、良い関係を築きつつあり、将来的には事業所が地域の高齢者介護の発信地として貢献して行きたいと考えています。年度初めには事業計画・行事計画を作成し、ケアサービスの方向性を明確に定め、管理者、職員が同じ視点で利用者本位のケアサービスに取り組む事が出来る様に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに]を理念として、この穏やかな町に生活できるように取り組んでいます。	法人共通の理念を事業所理念として定め、管理者は理念に沿った実践を職員に働きかけています。理念は玄関、ホールに掲示し周知を図っています。	ケアサービスの根幹である理念を職員全員が理解し、日々のケアに活かしていく事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の大掃除などに7名の職員が参加し、町内会との連携に取り組んでいます。6月6日町内会花いっぱい運動に、各ユニットから管理者、職員参加します。	町内会に加入し、町内の行事に利用者と参加し交流に努めています。管理者が地域出身でもあり近隣住民の理解がスムーズに得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への講習会などは、おこなっていないが今後取り組んで行きたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	21年8月、12月、3月、5月、と運営推進会議を開催、事業報告し御家族様出席者からもご意見を聞かせていただき、今後の運営に活かして生きたいと思っています。	概ね定期的に開催し事業所、利用者の状況報告、事故報告、課題事項等について話し合わせサービス向上に取り組んでいます。管理者は他事業所の運営推進会議に参加し、交流と事業所運営に反映すべく努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が判断できない件等、介護福祉課には、時々出向き意見を頂いたり、居宅会議にも参加させていただき、情報の収集に努めています。市役所介護福祉課指導計画担当係長の講義をたんの館職員におこなって頂きました。	行政と常に連携を図り相談や情報収集に努めています。行政担当者を講師に招き内部研修会を開催し職員の意識向上、サービス向上に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは常に見守りを行い、日中は鍵をかけた支援を行っています。	管理者、職員は身体拘束の意味を理解し、日々の介護を振り返りながら認識を共有しています。ベットの柵に付いても利用者、家族の意向を尊重し同意を得た上での使用となっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待もある旨の話をし、言葉使いにも気を配るように話をさせて頂いています。管理者は、施設内を見て虐待が見過ごされる事の無い様に気を配っています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業、成年後見制度について、理解できている職員少ないのが現状です。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族に説明し、納得されてからの契約をおこなっています。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で、ご意見を出して頂きご要望に沿えるように、考えています。	管理者、職員は家族の訪問時に何でも言って貰える関係作りを心掛けています。運営推進会議も、家族の意見表出の機会となっています。出された意見は職員で共有し運営に活かす様に努めています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員は、自由に話をし、代表者、管理者は話を聞く体制を作っています。	代表者、管理者は職員の意見や希望を受け止め、就業しやすい環境づくりに取り組んでいます。法人グループの管理者、職員で構成された『かがやきの輪』会議や事故検証委員会等での意見要望等も運営に反映されています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制時間を、各ユニットごとの職員に意見を聞き一番良い時間に設定し、それぞれ各ユニットで勤務時間が違います。資格取得を推奨し、手当の支給もおこなっています	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加し、外に出る事で自分の施設内と違った知識が吸収できる事を考え、法人研修会にも参加させていただいています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加入させて頂いており、研修会に参加し、交流の機会を通じてサービスの向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が、ここで安心して生活して頂く為に、見学をして頂き、本人様が気に入って頂けるように配慮させて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前に御家族様が、「ここなら安心できる」と思っただけのように、困っている事などをお聞きし出来るだけ要望に応える事の出来るような体制作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人様が、何を支援して欲しいのか、見極め把握し、本人様が望む支援体制作りに努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ご本人ができる事は、出来るだけして頂き出来ないところをお手伝いさせて頂き介護に努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の大先輩であることを胸に留め、尊敬、敬いの念を持って接する事を、大切に、家族とともに考えご本人様を支援していきます。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が生活されてきた、ご近所の方々などが気楽に施設に訪問され、いつでも誰でも来て頂けるように努めています。	買い物等利用者が慣れ親しんでいた場に継続して出向けるよう支援し安心して生活が送れる様に配慮しています。親しい方や友人が何時でも訪問出来るよう日中玄関を開放しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いがお互いを尊重しあい、支えあい、楽しく生活が出来るよう、支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても、行事案内などを行い関係を断ち切らないように努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を受け止め、ご本人が発した言葉等から、察する事が出来るように努めてまいります。	センター方式によるアセスメントやカンファレンス、利用者の言葉、態度等により利用者の状況を把握した中で希望や意向を職員で共有し不穏な時には家族の協力も得ながら利用者本位の支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者状況を入居前にアセスメントし、入居後は、ご本人からの聞き取りを大切に、利用者が望まれる支援に努めてまいります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートにより利用者の状況把握に努め、今後の支援に繋がるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況の変化があった場合などは、直ちに本人御家族、職員と意見を出して頂き、情報の共有に努め今後の支援に繋げていきます。	利用者、家族の希望や要望を踏まえカンファレンスを開催し、利用者本位の介護計画を作成しています。カンファレンス記録は解りやすく整理され、職員で共有されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活動、排泄、食事、睡眠、精神状況が毎日個別に記入され、連絡ノートなどを活かし、プラン作成に取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日のスタッフの人数によりニーズに対応する事が難しい場合には、柔軟に臨機応変な対応に努めています。管理者も応援に入り、見守りの強化などに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見に行き季節を楽しむ。緊急時に備え警察には、顔写真入りの情報を提供し依頼しています。職員は救命講習も受けたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を利用している。受診は、家族の協力が難しいときは、職員が付き添って受診しています。又かかりつけ医の往診もおこなわれています。	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携し支援しています。受診の情報は家族と連絡を取り合い共有し利用者支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師がいる為、体調変化などがあれば日々伝えて、適切な受診が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設内看護師との連携・情報提供により、スムーズに入退院がおこなわれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	睦会他の施設で、看取り介護をおこない講習会をひらいて頂きました。今後そのような事態に遭遇したときには、経験から意見を仰ぎ参考にさせて頂きたいと思っています。施設において勉強会も行い、研鑽に努めてまいりたいと思っています。	現在、重度化・看取り介護の指針を作成中となっています。同法人の他事業所で開催の講習会に職員が参加し、情報を共有しています。	指針を作成し利用者、家族と方針の共有と、医療機関等との連携など重度化、看取り介護時の支援体制の整備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが作成されているが、救命救急の研修には、消防署に出向き講習を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練が年2回行われ、夜間想定も実施しました。管理者、職員は、市役所・消防署主催の講習会に参加し今後は地域の方々にも協力参加していただき、避難誘導が、スムーズにおこなわれるようになりたいと思っています。	年2回の避難訓練を実施し夜間想定も実施しています。実施後は検証と、問題点の把握を行なっています。自動通報装置を設置し、連絡網の整備もされています。地域住民に災害時の協力を要請しています。	運営推進会議等を活用し地域住民への協力要請と地域への連絡体制等、地域住民との具体的な体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇講習会に参加するなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねる事の無い様に、言葉掛けには、注意を払い、守秘義務を果たすようにしています。	管理者、職員は常に利用者の尊厳を大切にし、馴れを戒め、言葉使いや態度に注意を払っています。個人記録の保管も配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない会話の中に、選択肢をもたせ、自己決定が出来るような支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分のペースや生活のリズムを持っている。どんな取り組みで、好反応があったのか把握し、生活の選択肢に取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の移動理容室を利用している。外出や受診の際は、自分に合った好みの服を着用されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力を活かしながら、スタッフと一緒に準備や、後片付けをされ、茶碗拭きもしてくれています。	利用者の希望や力量に応じ、職員と準備や後片付け、食事の挨拶を行なっています。月に一度移動パン屋が来て好みのパンを買って昼食にしたり、誕生日に希望のメニューにしたりと食事が楽しくなる様に工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表を作成し水分、食事量、排泄の記録するとともに把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人一人の状態に合わせて行われている。義歯装着者は、就寝時に薬剤洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記入し、一人一人の排泄リズムを把握し、声掛け誘導しています。	排泄チェック表を活用し、生活リズムを把握し、さりげない声かけで誘導する様心掛けています。パットの保管もプライバシーに配慮した方法が取られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック、水分チェック表を用いて毎日確認している。飲食物摂取の工夫、体を動かす等働き掛けをおこなう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制は整っているが、実施時間、又特殊浴槽については、曜日が決められている。	週に2～3回は入浴出来るように支援しています。週一日を予備日として設け利用者の希望に添えるように配慮しています。小規模多機能ホームに特殊浴槽があり、グループホームの利用者も利用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合った時間で、午睡も消灯もおこなわれています。日中の活動を充実させ、生活リズムに配慮し、眠れない利用者には、話を聞いたり、原因を見極め、眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、利用者一人一人の服薬内容を理解し服薬時には、声出し確認、記録をしている。内服薬に変更があれば連絡ノートに記載し情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人ができる事を見出し、利用者の力や気持ちを活かし、楽しくレクリエーション・作り物・ゲーム等が出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、利用者の気分に応じて、散歩、ドライブ、畑作り、買い物、外食等、戸外に出かけられる機会を設けています。	天候や体調に留意しながら日常的に散歩に出掛けています。玄関前に椅子とテーブルを置き外気浴も楽しんでいます。季節毎の外出も計画され、遠足、買い物、花見等積極的に出掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少金額を手元においている利用者は、買い物の際、自分で支払う事が出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望時に、電話の利用が出来るように対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、絵画、写真、花など季節に応じ、配慮されている。ユニット内壁と、居室内カレンダーは、季節を感じられる飾り物となっている。	事業所内は広くゆったりとし、季節の飾り付けや、写真、利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気となっています。温度、湿度も配慮され、空気清浄機が設置されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内テレビの前は、ソファが置かれており、気のあった利用者同士がいつもテレビを見たり、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物が居室内に持ち込まれており、居心地良く過ごせるようになっている。家族の写真などがおかれています。	各居室には洗面台、収納ロッカー、空気清浄機が設置され利便性に配慮されています。利用者は好みの物や写真を飾ったり馴染みの物を持ち込み、「自分の家」として居心地良く過ごせる様になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、車椅子利用者も安全安心に、自由に動けるようになっています。		